

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成22年2月15日

【四半期会計期間】 第61期第3四半期
(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

【会社名】 株式会社イトーヨーギョー

【英訳名】 ITO YOGYO CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 畑 中 浩

【本店の所在の場所】 神戸市灘区友田町二丁目5番25号
(同所は登記上の本店所在地で実際の業務は下記で行っております)

【電話番号】 078-858-8548

【事務連絡者氏名】 該当事項はありません。

【最寄りの連絡場所】 大阪市北区中津六丁目3番14号

【電話番号】 06-4799-8850

【事務連絡者氏名】 管理部長 樽 井 賢 治

【縦覧に供する場所】 株式会社イトーヨーギョー大阪本部
(大阪市北区中津六丁目3番14号)
株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

回次		第60期 第3四半期 累計期間	第61期 第3四半期 累計期間	第60期 第3四半期 会計期間	第61期 第3四半期 会計期間	第60期
会計期間		自 平成20年 4月1日 至 平成20年 12月31日	自 平成21年 4月1日 至 平成21年 12月31日	自 平成20年 10月1日 至 平成20年 12月31日	自 平成21年 10月1日 至 平成21年 12月31日	自 平成20年 4月1日 至 平成21年 3月31日
売上高	(千円)	1,618,839	1,707,068	626,986	675,843	2,617,404
経常損失	(千円)	180,207	154,919	48,880	22,323	189,779
四半期純利益又は四半期 (当期)純損失()	(千円)	137,362	127,151	6,640	37,134	167,565
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)					
資本金	(千円)			500,000	500,000	500,000
発行済株式総数	(千株)			3,568	3,568	3,568
純資産額	(千円)			3,128,857	3,201,094	3,093,857
総資産額	(千円)			4,290,779	3,886,635	4,231,251
1株当たり純資産額	(円)			1,037.26	1,061.28	1,025.66
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期(当期) 純損失金額()	(円)	44.23	42.16	2.14	12.31	54.34
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)					
1株当たり配当額	(円)					5.00
自己資本比率	(%)			72.9	82.4	73.1
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	84,436	79,027			102,120
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	77,497	23,165			51,466
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	16,872	15,072			16,881
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)			341,345	254,566	334,418
従業員数	(名)			150	140	149

(注) 1 「売上高」には、消費税等は含まれておりません。

2 「持分法を適用した場合の投資利益」については、関連会社がないため記載しておりません。

3 第60期第3四半期累計期間、第60期第3四半期会計期間、第61期第3四半期会計期間及び第60期の「潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額」は、1株当たり四半期(当期)純損失であり潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

4 第61期第3四半期累計期間の「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額」は、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期会計期間において、当社において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

3 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

4 【従業員の状況】

提出会社の状況

平成21年12月31日現在

従業員数(名)	140(3)
---------	--------

- (注) 1 従業員数は、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。
2 従業員数は就業人員であり、臨時従業員は()外数で記載しております。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第3四半期会計期間における生産実績を主要事業ごとに示すと、次のとおりであります。

主要事業の名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
コンクリート製品関連	376,377	161.3
建築設備機器関連	121,644	151.4
不動産関連		
合計	498,021	158.7

(注) 1 金額は販売価格により記載しております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当第3四半期会計期間における受注実績を主要事業ごとに示すと、次のとおりであります。

主要事業の名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
コンクリート製品関連				
建築設備機器関連	121,137	347.0	3,614	1.5
不動産関連				
合計	121,137	347.0	3,614	1.5

(注) 1 金額は販売価格により記載しております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第3四半期会計期間における販売実績を主要事業ごとに示すと、次のとおりであります。

主要事業の名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
コンクリート製品関連	576,765	103.8
建築設備機器関連	87,154	122.0
不動産関連	11,923	
合計	675,843	107.8

(注) 1 金額は販売価格により記載しております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

当社の売上高は通常の営業形態として上半期に比べ下半期の割合が大きいため、事業年度の上半期の売上高と下半期の売上高との間に著しい相違があり、当第3四半期会計期間と第1四半期会計期間及び第2四半期会計期間の業績に季節的変動があります。

2 【事業等のリスク】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社が判断したものであります。

提出会社が将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況
その他提出会社の経営に重要な影響を及ぼす事象

当社は、前事業年度まで7期連続して営業損失を計上しており、当第3四半期会計期間においても18百万円の営業損失を計上した結果、当第3四半期累計期間においては1億39百万円の営業損失を計上いたしました。当該状況により継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

なお、当第3四半期会計期間において、新たに発生した「事業等のリスク」はありません。

また、当第3四半期会計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社が判断したものであります。

1. 提出会社の代表者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する分析・検討内容

(1) 経営成績の分析

当第3四半期におけるわが国経済は、国際的な金融資本の混乱以降、景気は持ち直しているものの、自立性に乏しく失業率が高水準にあるなど、依然として厳しい状況で推移しました。

当社の関連する市場におきましても、公共工事は補正予算による財政出動等景気刺激策は実施されたものの、民間工事や設備投資面では低迷しており、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような環境の下、当社は、当期経営方針「積極的な意識変革、事業変革」を柱に、収益改善に努めてまいりました。特に当第3四半期累計期間においては、高付加価値製品である「ライン導水ブロック」等の積極的販売活動による売上増加、人件費をはじめとした販売費及び一般管理費の抑制等により、収益の改善を図りました。また、昨年12月に開催された「建設技術展2009近畿」において、当社商品「ヒュームセプター」が注目技術賞を受賞しました。

これは2008年の「ツイン側溝」の注目技術賞の受賞からの連続であり、当社の強みである技術力が高く評価されたものと自負しております。

以上の結果、当第3四半期会計期間の売上高は6億75百万円（前年同期比7.8%増）、営業損失は18百万円（同17百万円の改善）、経常損失は22百万円（同26百万円の改善）、四半期純損失は37百万円（同30百万円の悪化）となりました。

事業の種類別売上高は以下のとおりであります。

コンクリート製品関連事業	5億76百万円
建築設備機器関連事業	87百万円
不動産関連事業	11百万円

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期末の流動資産は15億2百万円となり、前事業年度末に比べ2億86百万円減少しました。現金及び預金の減少1億46百万円、受取手形及び売掛金の減少75百万円が主な理由であります。当第3四半期末の固定資産は23億84百万円となり、前事業年度末に比べ57百万円減少しました。投資不動産に該当する資産の有形固定資産から投資その他の資産への表示方法の変更がありました。固定資産の償却進行による減少が主な理由であります。

この結果、総資産は38億86百万円となり、前事業年度末に比べ3億44百万円減少しました。

(負債)

当第3四半期末の流動負債は3億66百万円となり、前事業年度末に比べ94百万円減少しました。支払手形及び買掛金の減少55百万円、賞与引当金の減少26百万円が主な理由であります。当第3四半期末の固定負債は3億19百万円となり、前事業年度末に比べ3億57百万円減少しました。長期未払金の増加などによる固定負債その他の増加2億6百万円、役員退職慰労引当金の減少5億68百万円が主な理由であります。

この結果、負債合計は6億85百万円となり、前事業年度末に比べ4億51百万円減少しました。

(純資産)

当第3四半期末の純資産は32億1百万円となり、前事業年度末に比べ1億7百万円増加しました。利益剰余金の増加1億12百万円が主な理由であります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期会計期間末の現金及び現金同等物は2億54百万円となり、第2四半期会計期間末に比べ92百万円減少しました。

当第3四半期会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、1億42百万円(前年同四半期93百万円の資金使用)となりました。収入の主な内訳は、たな卸資産の減少52百万円であり、支出の主な内訳は、売上債権の増加2億11百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は、48百万円(前年同四半期53百万円の資金獲得)となりました。収入の主な内訳は、定期預金の払戻による収入66百万円であり、支出の主な内訳は有形固定資産の取得による支出17百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、0百万円(前年同四半期16百万円の資金使用)となりました。支出の主な内訳は、配当金の支払額0百万円であります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期会計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 当第3四半期会計期間の研究開発費の総額は11,707千円であります。

2. 事業等のリスクに記載した重要事象等についての分析・検討内容及び当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策

当社は、「営業利益の絶対確保」の経営方針のもと、2009年度計画達成のための下記取組を推進、強化してまいります。

- (1) 主力製商品の拡販推進
- (2) 内部体制の強化および組織の活性化
- (3) 技術力のさらなる向上と新商品開発
- (4) 品質を重視した新たな生産体制の構築
- (5) 合理化も含めたさらなるコスト削減

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

第2四半期会計期間末に計画中であった重要な設備のうち、当第3四半期会計期間において完了したものは以下のとおりであります。

事業所名	所在地	事業部門別の名称	設備の内容	投資額 (千円)	完了年月	完成後の 増加能力
加西工場 岡山工場 多紀製造所	兵庫県加西市 岡山県瀬戸内市 兵庫県篠山市	コンクリート 製品関連	マンホール・ 道路製品等 製造設備	13,827	平成21年12月	なし
大阪本部	大阪市北区	販売業務	展示用商品等	322	平成21年12月	
合計				14,149		

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

当第3四半期会計期間において新たに確定した重要な設備の新設、除却等はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,270,000
計	14,270,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成21年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成22年2月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,568,000	3,568,000	大阪証券取引所 市場第二部	単元株式数は1,000株 であります。
計	3,568,000	3,568,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成21年12月31日		3,568,000		500,000		249,075

(5) 【大株主の状況】

大量保有報告書の写しの送付がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成21年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成21年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 551,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,015,000	3,015	
単元未満株式	普通株式 2,000		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	3,568,000		
総株主の議決権		3,015	

(注) 1 「完全議決権株式(自己株式等)欄は、全て当社保有の自己株式であります。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式が744株含まれております。

【自己株式等】

平成21年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社イトーヨーギョー	兵庫県神戸市灘区 友田町二丁目5番25号	551,000		551,000	15.4
計		551,000		551,000	15.4

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	193	197	209	235	270	236	236	216	216
最低(円)	193	175	191	192	216	226	236	206	185

(注) 株価は、大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までの役員の異動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号。以下「四半期財務諸表等規則」という。）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

なお、前第3四半期会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び前第3四半期累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）は、改正前の四半期財務諸表等規則に基づき、当第3四半期会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び当第3四半期累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）は、改正後の四半期財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び前第3四半期累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期財務諸表並びに当第3四半期会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び当第3四半期累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、唯一の子会社である伊藤恒業株式会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	0.1%
売上高基準	0.0%
利益基準	0.4%
利益剰余金基準	0.2%

会社間項目の消去後の数値により算出しております。

1【四半期財務諸表】
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	255,566	401,935
受取手形及び売掛金	² 749,163	824,850
商品及び製品	394,793	376,397
原材料及び貯蔵品	54,687	53,440
未成工事支出金	785	2,611
その他	66,096	149,346
貸倒引当金	18,554	19,311
流動資産合計	1,502,537	1,789,270
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	287,619	596,118
土地	1,159,020	1,438,527
その他(純額)	221,419	255,105
有形固定資産合計	¹ 1,668,060	¹ 2,289,751
無形固定資産		
投資その他の資産	5,463	6,620
投資不動産(純額)	566,317	-
その他	184,032	186,016
貸倒引当金	39,776	40,407
投資その他の資産合計	710,573	145,609
固定資産合計	2,384,097	2,441,981
資産合計	3,886,635	4,231,251
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	² 180,344	235,536
未払法人税等	3,810	3,669
完成工事補償引当金	172	410
賞与引当金	25,746	52,723
その他	156,254	168,398
流動負債合計	366,328	460,737
固定負債		
退職給付引当金	77,523	73,192
役員退職慰労引当金	32,000	600,730
その他	209,689	2,734
固定負債合計	319,212	676,657
負債合計	685,541	1,137,394

	当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	249,075	249,075
利益剰余金	2,764,309	2,652,240
自己株式	308,665	308,627
株主資本合計	3,204,718	3,092,688
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,624	1,169
評価・換算差額等合計	3,624	1,169
純資産合計	3,201,094	3,093,857
負債純資産合計	3,886,635	4,231,251

(2)【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	1,618,839	1,707,068
売上原価	1,038,315	1,129,967
売上総利益	580,524	577,101
販売費及び一般管理費		
運搬費	98,882	118,576
旅費及び交通費	29,762	23,719
役員報酬	54,504	40,640
給料及び手当	275,474	248,823
賞与引当金繰入額	47,002	48,052
役員退職慰労引当金繰入額	8,970	5,350
退職給付費用	10,128	8,522
法定福利及び厚生費	47,853	43,019
賃借料	28,931	29,426
減価償却費	10,137	12,144
租税公課	18,148	17,494
支払手数料	18,012	13,941
業務委託費	8,942	5,169
通信費	11,697	11,991
消耗品費	8,310	8,596
研究開発費	34,766	32,806
その他	52,913	47,984
販売費及び一般管理費合計	764,437	716,259
営業損失()	183,913	139,157
営業外収益		
受取利息	628	481
仕入割引	-	143
受取配当金	1,882	916
受取賃貸料	13,320	-
雑収入	4,318	2,647
営業外収益合計	20,150	4,188
営業外費用		
売上割引	16	13
減価償却費	3,468	3,049
ポウリング場損失	8,523	12,134
為替差損	4,234	4,673
支払手数料	201	0
雑損失	-	77
営業外費用合計	16,444	19,950
経常損失()	180,207	154,919

	前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
特別利益		
固定資産売却益	72,678	1,038
貸倒引当金戻入額	-	572
完成工事補償引当金戻入額	173	238
保険解約返戻金	-	11,426
役員退職慰労引当金戻入額	6,670	293,100 ₂
特別利益合計	79,521	306,375
特別損失		
たな卸資産評価損	29,605	-
たな卸資産除却損	-	10,367
固定資産売却損	-	12
固定資産除却損	4,172	11,530
投資有価証券評価損	1,207	-
リース解約損	-	704
特別損失合計	34,986	22,614
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失()	135,672	128,841
法人税、住民税及び事業税	1,690	1,690
法人税等合計	1,690	1,690
四半期純利益又は四半期純損失()	137,362	127,151

【第3四半期会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
売上高	1 626,986	1 675,843
売上原価	401,245	450,638
売上総利益	225,740	225,205
販売費及び一般管理費		
運搬費	44,215	49,558
旅費及び交通費	9,891	7,537
貸倒引当金繰入額	2,817	1,900
役員報酬	17,522	12,071
給料及び手当	90,714	79,822
賞与引当金繰入額	14,185	14,096
役員退職慰労引当金繰入額	2,970	1,820
退職給付費用	3,574	2,765
法定福利及び厚生費	15,283	14,136
賃借料	9,717	9,937
減価償却費	3,515	4,179
租税公課	6,206	5,614
支払手数料	4,794	5,022
業務委託費	2,157	2,115
通信費	3,760	3,942
消耗品費	2,495	2,408
研究開発費	11,464	11,707
完成工事補償引当金繰入額	20	37
その他	16,893	15,089
販売費及び一般管理費合計	262,199	243,762
営業損失()	36,459	18,557
営業外収益		
受取利息	35	111
仕入割引	-	101
受取配当金	499	326
受取賃貸料	4,373	-
為替差益	-	1,667
雑収入	717	487
営業外収益合計	5,626	2,694
営業外費用		
売上割引	8	-
減価償却費	1,107	1,016
ポウリング場損失	3,104	5,444
為替差損	13,626	-
支払手数料	201	-
営業外費用合計	18,047	6,460
経常損失()	48,880	22,323

	前第3四半期会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
特別利益		
固定資産売却益	45,733	-
特別利益合計	45,733	-
特別損失		
たな卸資産除却損	-	2,390
固定資産除却損	1,722	11,152
投資有価証券評価損	1,207	-
リース解約損	-	704
特別損失合計	2,930	14,247
税引前四半期純損失()	6,077	36,570
法人税、住民税及び事業税	563	563
法人税等合計	563	563
四半期純損失()	6,640	37,134

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 ()	135,672	128,841
減価償却費	85,701	89,437
貸倒引当金の増減額 (は減少)	1,304	1,387
賞与引当金の増減額 (は減少)	27,665	26,976
役員退職慰労引当金の増減額 (は減少)	4,870	568,730
退職給付引当金の増減額 (は減少)	6,214	4,330
完成工事補償引当金の増減額 (は減少)	173	238
受取利息及び受取配当金	2,511	1,397
支払手数料	201	0
為替差損益 (は益)	7,080	5,636
固定資産売却損益 (は益)	72,678	1,026
固定資産除却損	4,172	11,530
投資有価証券評価損益 (は益)	1,207	-
売上債権の増減額 (は増加)	32,996	157,896
たな卸資産の増減額 (は増加)	42,548	17,817
その他の流動資産の増減額 (は増加)	11,957	1,040
その他の固定資産の増減額 (は増加)	51,126	2,799
仕入債務の増減額 (は減少)	88,797	121,248
未払消費税等の増減額 (は減少)	1,627	14,267
その他の流動負債の増減額 (は減少)	107,712	71,899
その他の固定負債の増減額 (は減少)	90	206,955
小計	84,292	78,319
利息及び配当金の受取額	2,501	1,387
法人税等の支払額	2,357	2,095
営業活動によるキャッシュ・フロー	84,436	79,027
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,014	-
定期預金の払戻による収入	-	66,517
有形固定資産の取得による支出	22,510	44,442
有形固定資産の売却による収入	100,821	1,230
無形固定資産の取得による支出	-	140
投資有価証券の売却による収入	200	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	77,497	23,165
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	16,845	39
配当金の支払額	27	15,032
財務活動によるキャッシュ・フロー	16,872	15,072
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,507	8,918
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	142,554	79,852
現金及び現金同等物の期首残高	198,791	334,418
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 341,345	1 254,566

【継続企業の前提に関する事項】

当第3四半期会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)
該当事項はありません。

【四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	
会計処理の原則及び手続の変更	
1	<p>工事契約に関する会計基準の適用</p> <p>請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号平成19年12月27日)を第1四半期会計期間より適用し、第1四半期会計期間の期首に存在する工事契約を含むすべての工事契約について、当第3四半期会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p> <p>この変更により、従来の方と比較した当第3四半期累計期間の売上高、売上総利益、営業損失、経常損失及び税引前四半期純利益への影響は軽微であります。</p>
2	<p>不動産賃貸収入及び不動産賃貸原価の計上区分の変更</p> <p>従来、賃貸用資産に関する受取賃貸料及び費用は、営業外収益に純額で計上しておりましたが、不動産管理室の新設をはじめ不動産事業を重要な収益基盤として位置付けたこと及び不動産賃貸収入の金額的重要性が高まる見込みであることから、経営成績をより適正に表示するため、第1四半期会計期間より、売上高、売上原価及び販売費及び一般管理費に計上する方法に変更しております。</p> <p>この変更により、従来の方と比較して当第3四半期累計期間の売上高は31,657千円、売上原価は19,280千円、販売費及び一般管理費は5,003千円増加し、営業外収益は7,373千円減少するとともに売上総利益は12,377千円増加、営業損失は7,373千円減少しておりますが、経常損失及び税引前四半期純利益への影響はありません。</p>

【表示方法の変更】

当第3四半期会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)							
(四半期貸借対照表関係)							
1	<p>前第3四半期会計期間末において、流動資産の「その他」に含めていた「貯蔵品」(前第3四半期会計期間末568千円、当第3四半期会計期間末77千円)は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日内閣府令第50号)が適用されることに伴い、当第3四半期会計期間末では「原材料及び貯蔵品」に含めて表示しております。</p>						
2	<p>従来、有形固定資産に含めて表示しておりました賃貸用資産について、不動産事業を重要な収益基盤として位置付けたこと及び金額的重要性が高まる見込みであることから、当第3四半期会計期間末では、「投資不動産」として表示しております。</p> <p>なお、前第3四半期会計期間末の有形固定資産に含まれる賃貸用資産は以下のとおりであります。</p> <table border="1"> <tr> <td>建物</td> <td>220,533千円</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>50,053千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>6,624千円</td> </tr> </table>	建物	220,533千円	土地	50,053千円	その他	6,624千円
建物	220,533千円						
土地	50,053千円						
その他	6,624千円						

【簡便な会計処理】

当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	
1	<p>一般債権の貸倒見積高の算定方法</p> <p>当第3四半期会計期間末の貸倒実績率等が前事業年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前事業年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。</p>
2	<p>たな卸資産の評価方法</p> <p>当第3四半期会計期間末のたな卸高の算出に関しては、実地たな卸を省略し、第2四半期会計期間末の実地たな卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。</p> <p>また、たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。</p>
3	<p>経過勘定項目の算定方法</p> <p>合理的な算定方法による概算額で計上する方法によっております。</p>

【四半期財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第3四半期累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)
該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末 (平成21年3月31日)
1 有形固定資産の減価償却累計額 4,214,462千円	1 有形固定資産の減価償却累計額 4,699,156千円
2 四半期会計期間末日満期手形の処理 四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。 なお、当四半期会計期間末日は金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形が当四半期会計期間末残高に含まれております。 受取手形 42,848千円 支払手形 23,254千円	

(四半期損益計算書関係)

第3四半期累計期間

前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
1 当社の売上高は、通常の営業形態として上半期に比べ下半期の割合が大きいため、事業年度の上半期の売上高と下半期の売上高との間に著しい相違があり、第3四半期累計期間と他の四半期累計期間の業績に季節的変動があります。	1 当社の売上高は通常の営業形態として上半期に比べ下半期の割合が大きいため、事業年度の上半期の売上高と下半期の売上高との間に著しい相違があり、当第3四半期累計期間と他の四半期累計期間の業績に季節的変動があります。 2 役員退職慰労引当金戻入額 平成21年6月26日開催の当社第60期定時株主総会終結の時をもって退任した代表取締役会長伊藤剛次氏の役員退職慰労金の支給に備えて計上していた引当金の戻入額293,100千円であります。

第3四半期会計期間

前第3四半期会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
1 当社の売上高は、通常の営業形態として上半期に比べ下半期の割合が大きいため、事業年度の上半期の売上高と下半期の売上高との間に著しい相違があり、当第3四半期会計期間と第1四半期会計期間及び第2四半期会計期間の業績に季節的変動があります。	1 当社の売上高は通常の営業形態として上半期に比べ下半期の割合が大きいため、事業年度の上半期の売上高と下半期の売上高との間に著しい相違があり、当第3四半期会計期間と第1四半期会計期間及び第2四半期会計期間の業績に季節的変動があります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金 408,862千円	現金及び預金 255,566千円
預入期間が3か月超の定期預金 67,517 "	預入期間が3か月超の定期預金 1,000 "
現金及び現金同等物 341,345千円	現金及び現金同等物 254,566千円

(株主資本等関係)

当第3四半期会計期間末(平成21年12月31日)及び当第3四半期累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期会計期間末
普通株式(株)	3,568,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期会計期間末
普通株式(株)	551,744

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成21年6月26日 定時株主総会	普通株式	15,082	5	平成21年3月31日	平成21年6月29日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額は、第60期記念配当金5円であります。

(2) 基準日が当事業年度の開始の日から当四半期会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

5 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期貸借対照表計上額その他の金額は、前事業年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末 (平成21年3月31日)
1,061.28円	1,025.66円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末 (平成21年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	3,201,094	3,093,857
普通株式に係る純資産額(千円)	3,201,094	3,093,857
普通株式の発行済株式数(千株)	3,568	3,568
普通株式の自己株式数(千株)	551	551
1株当たり純資産額の算定に用いられた 普通株式の数(千株)	3,016	3,016

2 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額
第3四半期累計期間

前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額 44.23円 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり潜在株式が存在しないため、記載していません。	1株当たり四半期純利益金額 42.16円 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していません。

(注) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()の算定上の基礎

項目	前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
四半期損益計算書上の四半期純利益又は四半期純損失() (千円)	137,362	127,151
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失() (千円)	137,362	127,151
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,105	3,016

第3四半期会計期間

前第3四半期会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額 2.14円 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり潜在株式が存在しないため、記載していません。	1株当たり四半期純損失金額 12.31円 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり潜在株式が存在しないため、記載していません。

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎

項目	前第3四半期会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
四半期損益計算書上の四半期純損失(千円)	6,640	37,134
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失(千円)	6,640	37,134
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,105	3,016

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年2月10日

株式会社イトーヨーギョー
取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	井 堂 信 純	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	柳 承 煥	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	坂 井 浩 史	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社イトーヨーギョーの平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第60期事業年度の第3四半期会計期間(平成20年10月1日から平成20年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成20年4月1日から平成20年12月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社イトーヨーギョーの平成20年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期会計期間及び第3四半期累計期間の経営成績並びに第3四半期累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

追記情報

1. 継続企業の前提に関する注記に記載のとおり、会社は前事業年度まで6期連続して営業損失を計上しており、また、当第3四半期累計期間において営業損失を計上しており、当該状況により継続企業の前提に関する重要な疑義が存在している。当該状況に対する経営者の対応等は当該注記に記載されている。四半期財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な疑義の影響を四半期財務諸表には反映していない。
2. 会計処理の原則及び手続きの変更に記載のとおり、会社は当第1四半期会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」を適用している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年2月10日

株式会社イトーヨーギョー
取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柳 承 煥 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮 内 威 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社イトーヨーギョーの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第61期事業年度の第3四半期会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社イトーヨーギョーの平成21年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期会計期間及び第3四半期累計期間の経営成績並びに第3四半期累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

追記情報

1. 四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されているとおり、会社は、請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用していたが、「工事契約に関する会計基準」及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」を第1四半期会計期間より適用し、第1四半期会計期間の期首に存在する工事契約を含むすべての工事契約について、当第3四半期会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用している。
2. 四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されているとおり、会社は、従来、賃貸用資産に関する受取賃貸料及び費用は、営業外収益に純額で計上していたが、不動産管理室の新設をはじめ不動産事業を重要な収益基盤として位置付けたこと及び不動産賃貸収入の金額的重要性が高まる見込みであることから、経営成績をより適正に表示するため、第1四半期会計期間より、売上高、売上原価及び販売費及び一般管理費に計上する方法に変更した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。